

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290300225		
法人名	生活クラブ風の村		
事業所名	生活クラブ風の村グループホーム作草部		
所在地	千葉県稲毛区作草部1-15-17		
自己評価作成日	平成30年10月1日	評価結果市町村受理日	平成31年1月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成30年11月16日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援を基本とし、ご利用者の今までの生活歴や趣味嗜好等を把握し、できる事を維持、心身機能を低下しないようご利用者一人一人に合わせ日常生活を支えています。近隣・地域の認知症ケアに関しての拠り所とし、認知症介護に不安な方や認知症の状態にある方でも安心して気軽に相談できる場所になれるよう目指しております。 職員教育を推進し、本年度は、認知症介護実践リーダー研修・実践者研修を受講した職員もあり、認知症の状態にある方への理解を深め、その都度認知症ケアに活かしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「私たちは一人ひとりの個性と尊厳を尊重し、基本を大切に質の高い支援を目指します。など3つの理念を掲げており、理念は職員に毎年配布する「行動基準小冊子」の一番初めに記載している。当グループホームは、小規模多機能型居宅介護事業所、デイサービスセンターなどを併設した複合施設の一部にある。建物内に地域交流スペースもあり、認知症サポーター養成講座を開催したり、地域の自治会などに活用してもらっている。食事に力を入れており、目標は「体の栄養と心の栄養が満たされるよう《おいしく 楽しく 安全に》」である。複合施設の中にあるホームであることから、施設全体の厨房があり、施設内の利用者職員との食事をつくっており、訪問当日も昼食の場面では、利用者から「おいしい」の声を多く聞かれた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の事業所会議、ユニット会議の中で法人が作成した理念の唱和を行い、理念の意義付けを行っている。	「私たちは一人ひとりの個性と尊厳を尊重し、基本を大切にしたい質の高い支援を目指します。など3つの理念を掲げており、理念は職員に配布している「行動基準小冊子」の一番初めに記載している。会議では必ず確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われるイベントに参加している。地域の夏祭りに参加や近隣の飲食店へ食事会に行ったりと地域の方と交流をしている。	ホームはデイサービスセンターや小規模多機能型居宅介護事業所などを併設する複合施設内にあり、日常的に交流がある。また、自治会にも加入しており、地域のイベントに参加する機会がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	3ヶ月に1回開催している運営推進会議の中でも認知症研修を行い、認知症の人への対応方法や実践での事例も交えながら民生委員等、地域の方に発信する機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、併設している小規模多機能型居宅介護と同時開催をしている。事故の再発防止など地域住民からの意見も参考にし、サービス向上に役立てている。	地域包括支援センターの職員や家族・自治会長・民生委員・児童委員などの参加があり定期的に開催している。3か月間の活動報告では事故報告も行き、意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加している地域包括の方とは連携が取れており、グループホーム連絡会には参加している。	地域包括支援センターとは、日頃から連携が取れている。また、市町村とは研修の情報をもらったり、必要に応じて相談や報告をするなどしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	頻繁に外出意向がある利用者には、センサーを持って頂き音ができるようにしている。外出される際は、可能な限り付き添いを実施している。フロア内施錠はしておらず、夜間帯のみ施錠をしている。	権利擁護委員会を設置している。権利擁護と虐待防止の基本姿勢を職員の「行動指針」に記載し、利用者の尊厳を尊重したケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待防止委員会にて、言葉遣いや不適切なケアについて振り返りを行い、各職員へ伝達している。第三者委員の来訪時に職員の言動・行動に注視して頂き、指摘を頂いている。		

## 【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している職員との関わり方や後見人との関係性など実践的に学び活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、管理者・ケアマネが中心となり、本人や御家族との意思確認や不安解消の為に話し合いを行い、理解・納得をして頂いた上で入居対応を行っている。また、介護保険改訂の際には、サービス内容確認書を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	連絡をこまめに取りたい家族には連絡ファイルを作成し、互いに要望が言えるように対応している。家族の要望や意見はその都度聞き入れ対応している。	運営推進会議や家族の来所時に意見を聞くようにしており、反映に努めている。居室担当者を配置しているため、利用者の意見は担当者が聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や事業所内会議をほぼ全員が参加できるような体制にし、情報共有がしやすい環境を整えて、職員の意見交換を行っている。個別面談の場を設けている。	ユニット間で協力し合いながら1か月に1回はほぼ全職員が参加できるように会議を組んでおり、意見を聞く場となっている。意見などについてはできる限り反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別の相談・意見等に対応できる体制を整えている。個別での面談が随時行える環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修を実施・計画を立てている。実践者研修には、全職員が参加という目標を立てている。介護技術の研修など定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	併設している小規模多機能型居宅介護や通所介護の事業所と協力し、施設全体としてのイベントの企画や研修を合同で行っている。		

## 【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接と訪問の際に本人の要望を聞き、アセスメントを取っている。可能な限り本人の話を傾聴する姿勢を持ち、信頼関係が作れる事ができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接や見学時に家族の話聞き、その中で施設にどのような要望があるのかを確認している。本人や家族の立場に立っての助言をし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設で支援できる事と難しい事をお伝えし、本人にとって何が今必要なかを理解していただき、サービス利用の選択をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活場面の中で、本人のできる事を見つけ、一緒に活動して頂くようコーディネートしている。洗濯畳みや食事の準備・片付けの作業など行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度の手紙にて入居者の生活を知らせている。気軽に面会に来られるような雰囲気作りを努め、そこで御家族と情報共有しあい関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人を良く知る他事業所の利用者と接する機会を多く持つようにしている。	家族などの協力を得て、馴染みの場所などに外出できるように支援している。また、併設のデイサービスセンターや小規模多機能型居宅介護事業所の利用者とは交流があり、馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段から人が集まるフロアや一人一人の様子や動きを把握し環境を整えている。入居者同士の関わりが難しい利用者には、職員が関わりを持ち、介入・代弁を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	グループホームを一度退居され、再入居された利用者がある。再入居の前は、併設している小規模多機能型居宅介護を利用されており、グループホーム退居後も御家族の相談を受け対応していたケースがあった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントやケアプランに目を通し、本人の要望を聞き取りしている。意思の疎通が難しい利用者についても本人の立場に立つてのサービス提供をしている。	普段から話をゆっくり聞いて、意向の把握に努めている。困難な場合は家族から情報をもらうこともある。把握した思いや意向は記録し職員間で共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族からの情報や日頃の会話で本人の家族状況を把握し、日々のコミュニケーションから更なる情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の状況を把握し、身体状況や精神状況など変化に気付いた際は、ケース記録等を活用し職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議内にて本人のニーズを話し合い、結果を全職員で把握している。その内容をケアプランにも反映させている。	利用者本人や家族などの希望を踏まえ、医師、看護師の意見も参考にしてユニット会議、全体会議などで話し合い介護計画を作成している。6か月に1回見直すとともに、状況が変われば随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録など、日中・夜間の個々の状態を記録し、職員がいつでも確認できるようにしている。また、情報の内容をケアプランの見直しに活かし、全職員が共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状況に合わせ、対応を変えている。ケース記録などを活用し情報共有を行っている。施設の現状でどのようなサービスができるかを見極めてケアしている。		

## 【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し地域の夏祭りなどに参加している。地域の方々と関わりを持ち一緒に楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診や訪問歯科が週1回来て頂き対応している。他科受診に関しては原則御家族が対応を行い、出来ない時は、職員が対応している。	訪問診療が月2回あり、薬剤師も同行している。また、週1回は訪問看護が入っており、健康管理を行っている。これまでのかかりつけ医や専門医受診については家族に協力を依頼しているが、ホームでも情報は共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護に診て頂き体調管理を行っている。様々な気づきも看護士に相談し、判断を仰ぎ統一した対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問看護やかかりつけ医に連絡をし指示を仰ぎ、入院中の状況など情報を聞き、退院後の対応等関係者と話し合いを持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院や御家族様と連携を取りながら、入院中・入院後に備え情報収集をして、退院後も的確に対応できるように、また、御本人様が安心して快適に過ごして頂けるよう努めている。	重度化した場合や終末期についての方針があり、入居時に家族や利用者に説明をしている。法人の「行動基準小冊子」においても「ターミナルケアをする」と明示しているが、家族の意向も尊重しており、医療行為を希望すれば入院となることもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、それに添い実践している。事故発生時には、訪問看護師に連絡を取り指示を仰いでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回消防訓練を行っている。夜間想定訓練も行い、不足している危険があるなどを確認できた。防災委員会を設置し、防災に関する事柄の振り返りを随時行っている。	ホームは複合施設の中にあることから、半年に1回は消防署の指導のもと、合同の避難訓練を実施している。また、館内に避難経路図を掲示し、災害時の連絡フローチャートも作成しており、食料・飲料水を備蓄している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	書庫にて個人ファイルの保管をしています。食事・入浴・排泄の言葉掛けでは、一人ひとりの「人となり」を尊重した対応を行っている。利用者には「さん」付けを基本とした丁寧な声かけを心掛けている。	法人の理念に「一人ひとりの尊重」を謳っており、職員は「行動基準小冊子」で確認している。排泄介助や入浴支援の際には声かけなどにおいてもプライバシーに配慮するように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の仕方を工夫したり、個別対応や何でも言えるような雰囲気作りを心掛け、本人を尊重した支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人ペースで生活できる環境を作っていく為に、希望を聞き散歩や買物のケア等も行って。一人一人が望んでいる事を実践できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望で訪問理容をしている方がいます。化粧をして頂いたり、身だしなみを整えたりして、気持ちにメリハリがつくような支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する準備の段階から後片付けまでの間を参加して頂けるよう工夫・選択の意思表示ができるような支援を行っております。	複合施設であることから、食事は管理栄養士が献立を立てて1階の厨房で作ったものを、ホームで利用者も参加して盛り付けを行っている。また、レクリエーションの一環としてホットケーキを焼くなどのおやつ作りや流しソーメンを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理に留意し、食事記録の中で摂取量の把握をしたり、水分チェック表を使っての水分量の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア誘導や口腔ケアの言葉掛けを意識して行っている。月に4回、訪問歯科の訪問があり、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いての排泄間隔を把握し、適当な時間に声掛け、トイレ誘導を行っている。FUNレストテーブルを使用しております。	各居室にトイレを設置しており、ほとんどの利用者が居室のトイレを使用している。職員は排泄チェック表により利用者ごとの排泄パターンを把握しており、適切に声かけができるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物(ヨーグルトやヤクルト)を1日1回摂取してもらう。薬に頼らずに排便できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上の入浴を促している。その日の体調や活動内容により本人の意思を尊重している。	週2回は入浴できるようにしている。入浴用の椅子などの補助具を適切に使用しながら、できる限り自分の力で入浴ができるように支援して、入浴を楽しんでもらえるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間や体調に合わせて休息して頂く支援を行っている。疲れが見える時などは休息を促すなど、体調に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診後の処方薬の変化や処置などは記録に残し、スタッフ一人一人が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味を取り入れている。裁縫が得意な方やとにかく運動が好きな方等、個別のニーズに合わせて役割や楽しみを感じて頂く支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように	天気の良い日は、散歩や屋外に出て戸外に出る機会を作っている。また、個別で外出する機会を作っている。	年数回は、遠出の外出を楽しんでいる。また、日常的にはホーム周辺や屋上にある庭を散歩したり、希望により買い物に出たりしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルを考慮し、金銭管理の説明し、御本人・御家族の承諾の上で、金銭保有して頂いている。外出の際は、預かり金を活用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望があれば、本人自ら電話できる環境にある。携帯電話を持参している利用者もいる状況。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の掲示物を作成したり、写真を貼ったりしている。毎日、利用者と一緒に清掃を行い、清潔保持に努めている。	共用空間は温度や湿度管理に配慮している。また、季節感のある掲示を心がけ、四季を感じてもらおうようにしている。清掃はできる範囲で利用者にも参加してもらっている。	施設内を見学した際に、浴室の清掃で気になる部分があった。また、利用者と一緒に清掃を行うのはよい事だが、職員による最終的な確認も必要と思われる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が座る座席は安心して過ごしていただけるように座席配置を行い、思い思いにくつろげるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の写真や使い慣れた物など各々に居室に飾って頂いている。好みの本を読まれたりと御本人が安心できるような物を用意してもらっている。	各居室にトイレと洗面台が設置されている。利用者が自分の居室として安心して過ごせるように、使い慣れた品や思い出の物を持って来てもらうように依頼している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内やリビングでは、安全に立ち上がりができるように本人の体格に合わせた椅子の用意をしている。		

## 【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所